

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯山のさつまいもによる元気な地域づくり事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人飯山そば振興研究会 飯山市大字瑞穂豊 601-1
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,144,600 円 (うち支援金 : 862,000 円)

事業内容

1. 生産振興策 (通年)

(1) ソフト事業

① そば・さつまいも商品開発

(2) ハード事業 (機器の購入)

① 遠赤外線電気焼き芋機 1台

② 営業用焼きいも壺セット 3式

【モデル的で発展性のある理由】

農地の継続的活用を図るための、そば連作障害対策作物さつまいもの導入は、そばの安定生産体制の構築および「さつまいも」の新しい商品開発につながるもので、そばとさつまいもによる産地形成のモデルとなり、地域の発展に寄与できるものと考えられる。



【試食宣伝会の模様 R4.12.11】

事業効果

1. そば圃場跡地への栽培により把握できた課題

① 土壌改良の必要性

火山灰土壌の圃場に比べ粘土質の圃場では、奇形の芋が出来やすい。

② 収穫時期の適期把握

収穫時期の遅れによる芋の過剰肥大が見られた。

③ 品種の適応性

「紅あずま」「紅はるか」を中心に試験栽培したが、病害・虫害・奇形の発生等を考慮すると「紅はるか」が焼き芋用には優れている。

④ 収穫直後のキュアリング処理の重要性、焼き芋にした際の糖度の向上対策のための保管技術の確認

紅はるか 生芋11度、焼き芋38度(12月13日調査結果)

⑤ さつまいもの収穫体験会を開催したが、人力による掘り取りは事業化するには無理であることを実感した。R4.10.11

2. 焼き芋の製造・販売について

① 12月11日新そば祭り(学生食堂)と併せて試食宣伝即売会を開催し、一定の評価を得る。

② 道の駅花の駅千曲川での販売方法につき、担当者との協議 R5.1.19

【目標・ねらい】

- ① そば圃場の輪作作物としての課題解決
- ② トрендである「焼き芋」の商品化
- ③ 焼き芋以外の商品開発と販売

※自己評価 【A】

【理由】

第3回さつまいも博の視察を実施することにより、次年度に向けて総合的に取り組む課題整理が出来た。

3. 先進事例取組み視察

① 第3回さつまいも博視察 R5. 2月23日

場所:さいたまスーパーアリーナ

全国より20店舗程の焼き芋店を始め、さつまいもを扱う事業者が参集出店し、正にさつまいもがトレンドであることを目の当たりにした。焼き芋の製造方法の実際から、扱い品種、多様な芋製品の情報を得ることができた。

特に、参集者は若い子供連れの家族がほとんどであり、さつまいもの今後の事業化に期待がもたれる。

今後の取組み

1. 栽培関連

- ① 省力栽培に向けた芋掘り機による掘り取りができる様、土壌環境づくりに取組む。
- ② 自家苗確保に向けた試験育苗に取組む。

2. 流通関連

- ① 洗浄機の導入により、販売に支障の無い体制を整える。
- ② 流通業者を通じた生芋販売。

3. 製品開発

- ① 引き続き、下高井農林高校食品加工コース生徒の皆さんとのコラボ事業と併せ、焼き芋規格以外の製品化に向けた取組み。

4. 地産地消に向けた販売

道の駅花の駅千曲川、菜の花まつりイベントへの参加、自家食堂でのスイーツとしての提供等に取組む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある